

## 森の国・森林環境管理高度技術者養成拠点

実施機関：愛媛大学（総括責任者：柳澤 康信）

実施期間：平成 22～26 年度

### プロジェクトの概要

森林環境管理の課題解決を図り、森林保全と林業の持続的安定的発展を目指し、森林環境管理特別コースを愛媛大学大学院農学研究科に創設する。本コースは森林環境管理高度技術者養成のための専門職大学院的性格を持ち、応用・実践面を重視したカリキュラムを愛媛県林業研究センターの施設を活用して養成する。同時に、短期集中型の社会人リカレントコースとして、社会人のニーズにも合わせた5つの系列のメニューで構成し、修了生の活躍により地域再生に取り組む。

#### (1) 評価結果

総合評価	進捗状況	人材養成手法の妥当性	実施体制・自治体等との連携	人材養成ユニットの有効性	継続性・発展性 の見通し
A	a	b	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

#### (2) 評価コメント

林業の再生を担う「森林環境管理高度技術者」を養成する事業として、大学院生と社会人両者が相互に刺激を受けながら養成されていること、及び社会人リカレントコースで充実したカリキュラムが実施され、派遣元の評価が高まってきたことなどは評価できる。今後、養成される修士課程コースの人材が社会で活躍できる工夫を行うとともに、取組対象を森や森林資源の活用にまで拡げて、産業化、事業化に貢献しうる人材の養成を目指すことを期待する。また、森林保全などの問題は全国に共通した課題でもあることから、将来的には全国展開できる工夫も期待する。

・**進捗状況**：修士課程コースについては、中間目標は下回るものの、入学者の確保に努めた結果、入学者の増員を達成し、最終的には所期の目標を上回る見込みであることは評価できる。今後は、修士課程コース修了者の進路を確保するとともに、森林ビジネスの再生に貢献し得る人材の養成を期待する。

・**人材養成手法の妥当性**：被養成者等へのヒアリングやアンケート調査の結果を踏まえた上で教育カリキュラムの構築していることや、受講形態を柔軟に修正し最適化を図っている点は評価できる。しかし、「木材から森林管理へ」という視点で「自ら課題を発見する能力」が十分には育成されていないことから、今後は、当該分野のカリキュラムを再構築することが必要である。また、林業再生プロジェクトとの情報交換や農林水産省のコーディネーターの活用等、森林環境管理を地域再生に結びつける取組も期待する。

・**実施体制・自治体等との連携**：市町村、森林組合、民間企業等との総合的で多面的な連携を実施していることや「えひめ森林・林業振興プラン」における「愛媛型フォレスター制度」の構築を図ろうとする等の取組は評価できる。今後、複数の制度を相互に連携させるとともに、愛媛木材のブランド価値向上に向けた自治体からの支援等を一層高めること期待する。

・**人材養成ユニットの有効性**：社会人リカレントコース修了者の全員が地域に戻り活躍していることや、定着率が100%であることは評価できる。今後は、現場のニーズである「木材から森林管理へ」という視点が十分反映された取組となることを期待する。

・**継続性・発展性**の見通し：本プロジェクトが愛媛県の「えひめ森林・林業振興プラン」の中に位置づけられており、社会人リカレントコースにおいて授業料徴収を行っている点は継続の見通しがあるものと評価できる。今後、ブランド、環境、観光等を含めた総合的な森林ビジネスに貢献できる人材を養成する拠点として発展的に展開することを期待する。